

鈴木みどり議員 政風会

住宅密集地域での火災発生時の消火対応は？

問 (1) 10月31日の未明に、佐古木で死者2名を出す大きな火災が発生した。

初めは消火栓2カ所から水を出したそうだが、1本の同じ水道管からだったため、水圧が下がり、水が勢いよく出なかったと聞いた。

消火栓はもともと初期消火が目的で市内各所に設置してあるが、一度に2つの消火栓は使えないのか。

(2) 市内の防火水槽の数は。
(3) 本市にも、まだまだ消防車が入れないような狭い道に住宅が密集しているところもある。もしそのようなところで火災が起きた場合の消火対応は。

(4) 火災が起きた後の後始末はどのようなになるのか。

火災建物を四方から囲み火災の拡大を防ぎながら消火活動を行う

答 危機管理課長

(1) 水道管の設置の形態によつて異なり、先が行きどまりのような水道管については、1方向しか送水されていないため、水道管に設置された消火栓につき、一度に2つの消火栓が使えない場合がある。このような場合、現場の状況に応じて水利を確保して消火活動を実施する。

今回、3カ所の消火栓を利用して消火活動を行った。これについては、本管からそれぞれ分岐している消火栓を使用したという事で、同じ送水経路の中の2カ所

については使えない。
(2) 市内の防火水槽設置箇所数は58カ所で、市が管理をしている。

(3) 海部南部消防署に確認をしたところ、消防車が入れない場所での消火活動は、その火災現場になるべく近い場所に消防車をとめて消火活動を行うとしており、住宅密集地の消火活動は、火災建物を四方から囲むようにホースを延長して火災の拡大を防止しながら火の勢いを制御していくということだった。

答 市長

(4) それぞれの火災の過去の慣習というものがあるもので、全て行政が片づけるというわけにはいかない。そうした中で、今回の火災については、親族の方とも協議をして、地域の方々に少しでも早く安心をしていただけるように、話をさせていきたい。

健康フェスタの会場間での入格差の解消を

問

市の秋の最大イベントでもある健康フェスタが、ことしも盛大に行われた。

この健康フェスタは、メイン会場の十四山スポーツセンターと三ツ又池公園会場の大きく2つの会場で行われている。

三ツ又池公園会場では昨年は天候にも恵まれ大好評だった熱気球体験も、ことしは風が強く、朝から中止になってしまった。そのせいか、特に午後からの三ツ又池公園会場は人も少なく、閑散としていた。

十四山スポーツセンター会場と三ツ又池公園会場の入格差を市はどう考えているか。

新しい企画、イベントを考えていきたい

答 民生部長

三ツ又池公園会場では、ふるさと水郷ゾーンとして



▲熱気球体験(26年度)

既設の施設を利用した魚つり大会、駅伝大会、また広い面積を確保しやすいことから熱気球体験、女性の会ECCOコーナー、きんちゃんバス・パトカーの展示などを開催している。

ただし、屋外会場のため非常に天候に左右されやすく、集客数に大きな差があることは、認識している。今後の運営については、検討していく必要があると考えている。

答 市長

熱気球だけにこれからも頼るわけにはいかない。三ツ又池公園会場がにぎわうような新しい企画、イベントを考えていきたい。